

夢創造

▶残暑が続いていますが、朝夕には秋の虫の音も聞こえてきています。少し色褪めたヒゴタイの花です。



平成30年8月28日（火）no.13 文責：上田

1 学期後半スタート 学園生の自覚を

夏休みも終わり、昨日（27日）、1学期後半がスタートしました。子どもらの笑顔が学園に戻ってきました。夏休み中、大きな事故等もなく元気に過ごせたようで安心しました。1学期後半を迎えるあたり、教育目標「仲間とともに歩み、夢をつむぐ産山学園生の育成」の更なる具現化に向け、子どもたちには学園生心得『礼・場・時・襟』を自覚した言動を心がけるよう指導します。

9月には、6年修学旅行、ヒゴタイ交流受入、中体連陸上大会の行事等も予定されており、一つ一つの行事等を通して子どもらの成長を確かなものにしていきたい思います。

ヒゴタイ交流派遣 30 周年 貴重な体験の機会

ヒゴタイ交流派遣 30 周年として、今年度は中学部生 6 名（9 年：飯野柊子、工藤伎加、合使裕璃阿、8 年：井奏眞、森本清斗、工藤心悟）と引率の矢野教諭・井教諭がタイ・カセサート大学サティカセ校、ホーステイ宅での体験を行いました。言葉も社会規範も異なるタイでの 3 週間の滞在は、派遣生にとって貴重な体験であったことだと思います。福岡空港の到着口から出てきた派遣生たちが帰国して安堵した表情とともに、やり遂げた達成感みたいな清々しさを醸し出していました。

今後のヒゴタイ交流の取組として、派遣生の 5 年生以上への報告会、9 月に訪れる受入生との交流を、学園生一人一人が学びの機会として生かしてほしいと思います。

先日、8 月 15 日の村成人式で、新成人の一人が小・中学校の思い出を語った際、「ヒゴタイ交流が自分の考え方を変えた」と述べていました。その一言でも、ヒゴタイ交流は生き方にも大きな標（しるべ）となる体験だと感じられました。



“子どもの未来にふれている” 不祥事防止（職員研修）

新聞・テレビ等の報道でもご承知かと思いますが、県内で教職員の不祥事が相次ぎました。県教育長から 8 月 16 日付けで～子ども達・保護者の皆さん及び教職員に伝えたいこと～と題したメッセージが出されました。徴収金横領、わいせつ事案等は、“子どもの未来にふれている”（子どもの教育に関わり負託に応えるべき）教職員にあってはならないことです。本校でも昨日 27 日、職員研修を行いました。

「子ども達がそれぞれに自分の夢や希望を描き、生きることの喜びを感じながら成長していけるよう、関係者一丸となって、引き続き全力で取り組んで参ります。」（教育長メッセージ）